

もがみ そばだより

第 1 号 播 種 編
令和 8 年 7 月 21 日
最上総合支庁 農業技術普及課
☎0233-29-1330（作物担当）

多収に繋がる安定した発芽率の確保は最初の圃場づくりが肝心です！

◎排水対策 ～そばは湿害にととても弱い～

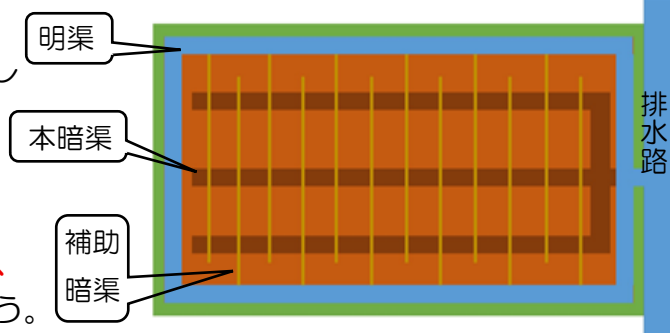
- 既に粗耕起した圃場では連日の降雨で滞水している圃場が見られます。本耕起に入る前に溝を切って、圃場の排水を促しましょう。今後も断続的な降雨が予想されます。播種後の大雨で滞水し、発芽不良、生育不良とならないように以下の排水対策を徹底しましょう。

○明渠施工

右図のように額縁明渠を施工して排水を促しましょう。

○補助暗渠（心土破碎）

水稻から転換して間もない圃場は作土下の耕盤が硬く、排水を妨げます。深さ 30cm、2～3m 間隔で明渠・暗渠に接続しましょう。



◎耕起と施肥 ～適正な土づくりが収量につながる～

- 砕土率（粒径 2cm 以下の土塊の割合）を 70%以上、耕起の深さを 15cm に設定して丁寧な耕起作業を心掛けましょう。
- 基本的な施肥量は右表の範囲内です。過度な施肥は過繁茂による倒伏の原因となるため、土壤の肥沃度を考慮した施肥を行いましょう。また、野菜の作付跡地で栽培する際はリン酸とカリのみの施肥にとどめましょう。

＜基肥の施用量＞

成 分	施用量（/10a）
窒素	2～4 kg
リン酸	6～9 kg
カリ	6～9 kg

◎播種の適期と様式 ～適期の播種で適正な生育量を確保～

- 早すぎる播種は徒長・倒伏を招き、遅すぎる播種は訪花昆虫の受粉が上手くいかず結実不良が懸念されます。下表に沿って適期に播種しましょう。

＜播種適期＞

	7月下旬	8月上旬
平坦部		○
中山間部	○	○
山間部	○	



そばは訪花昆虫を媒介に受粉し、結実するため、遅すぎる播種は開花が遅れ、訪花昆虫が活動するタイミングを逸する可能性があります。

＜播種様式＞

	播種量（/10a）	留意点
条播	4～6 kg	土壌水分が多い場合、鎮圧が強いと発芽阻害を引き起こす。
散播	5～8 kg	十分な砕土ができないと出芽が不揃いとなりムラができる。

農作業中の熱中症を予防しましょう ～こまめな休憩と水分補給を～

山形県農業危害防止運動実施中！ ～使用基準を確認し適切な使用を～